
NPO法日本海洋深層水協会メールマガジン 第81号 (2015年4月29日)

NPO法人日本海洋深層水協会 メールマガ編集チーム

当協会では、海洋深層水利用の最新動向や、各地のイベント、製品開発などの話題を、会員および一般の皆様へ、より積極的にお知らせするために、メールマガジンを発行しています。

どなたでもご利用いただけますので、配信をご希望の方は、当協会HPの“メールマガジンの申込み” http://www.npojadowa.net/DWScript/DWInfo_MailMgzn.htm からお申し込みください。

会員向けには、同時に海洋深層水関連ニュースも配信しています。

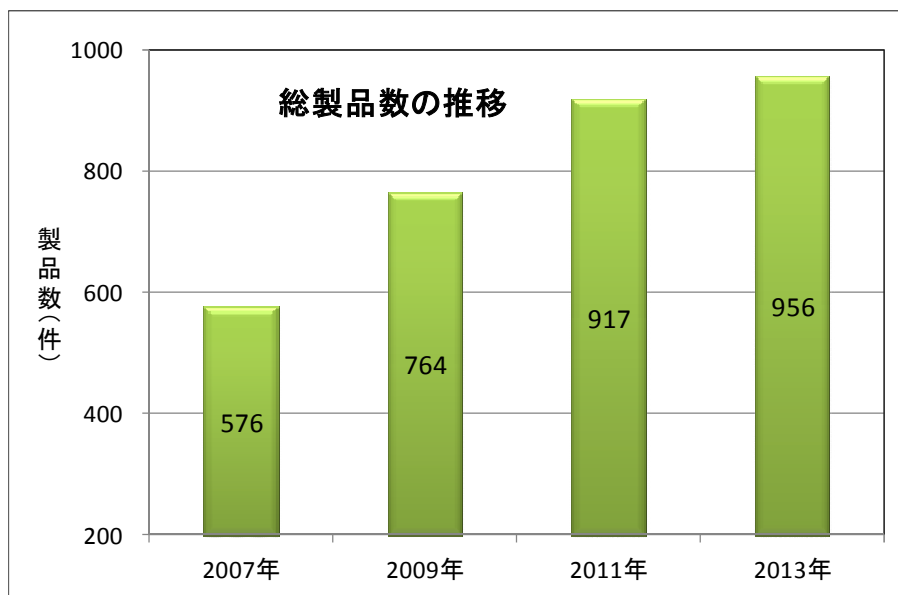
読者の皆様で、メルマガやHPを通じて情報や話題を提供したいと思われる方は、メールで [npjadowa@npjadowa.net](mailto:npojadowa@npjadowa.net) まで、ご連絡ください。

<協会制作記事> 調査報告会「海洋深層水製品の市場動向」開催のお知らせ

今回のメルマガでは、5月30日(土)に開催される定期総会の併催企画「海洋深層水製品の市場動向」調査報告会についてご案内します。

当協会では、海洋深層水利用製品の開発動向や市場動向を把握するために、各取水地の海洋深層水協議会や製品生産各社のホームページなどの検索によって、2007年から隔年で、インターネット上に紹介されている製品を対象として海洋深層水製品の市場動向の調査を行ってきました。2011年版からは、それまでに実施した調査の結果から分かる変化や傾向の分析を加えて、調査対象年までの製品生産の動向を把握できる資料としてまとめています。この調査では、海洋深層水利用製品のうち、飲料水、酒類、水産加工品、農産物、化粧品、塩・にがりの6製品分野を対象としており、これらの製品の全国的な生産状況、全国13取水地(産地)別の生産状況、製品分野ごとの生産状況、主要取水地の生産額の推移などを知ることができます。

このたび、2013年の調査結果をまとめた2014年度版が完成しました。ちなみに調査結果から、海洋深層水製品の総数は2007年を基準として、2009年には1.3倍、2011年には1.6倍に、2013年には1.66倍に増加しています。(製品数=1銘柄を1製品とカウント)



海洋深層水製品の総製品数の推移

また、この状況を製品分野別にみると、2007年から2013年の調査の間で、飲料製品は1.44倍、水産加工品は1.43倍、化粧品は2.65倍、農産物は2.44倍の増加を示していますが、その一方で、酒類は0.97倍とやや減少の状況です。

取水地別の総製品数(銘柄数)では、室戸が230品目以上、滑川が150品目程度で突出しています。続いて、久米島が100品目程度、羅臼、能登が80品目程度、尾鷲、焼津が70品目程度となっており、2011年と比べて久米島の続伸と焼津の低迷傾向が覗えます。

取水地ごとの生産品の特徴としては、室戸では飲料製品、滑川では化粧品、焼津では水産加工品の製品数が多いことが分かります。また、調査では、室戸など主要生産地の生産額を含めた生産動向などの分析も行っています。

これらの調査結果は、今後の各地の海洋深層水製品生産者の皆様や、各自治体の海洋深層水担当者の皆様などに、ご活用いただけたら幸いです。

今回のメルマガでは、調査結果のさわりを紹介しましたが、より詳細な調査結果を紹介する報告会を、来る5月30日(土)に開催する定期総会に引き続いて、下記の要領で実施しますので、会員の皆様は、総会出席と併せてご参加ください。

当協会では、今後も引き続き、海洋深層水に係る各種の調査を進めてまいりますので、今後とも、調査へのご協力とご支援をいただきますよう、よろしくお願いいたします。

2015年度定期総会と調査報告会の開催

日時:2015年5月30日(土)

2015年度定期総会 14:30-15:30

協会調査報告会 15:40-16:40

会場:新宿NPO協働推進センター101会議室

東京都新宿区高田馬場 4-36-12(西戸山第2中学校跡施設)

その他:報告会終了後に懇親会を開催します。

詳細については当日ご案内いたします。

会場案内図: <http://www.city.shinjuku.lg.jp/content/000143374.pdf> 参照



・高田馬場駅より徒歩 15分 JR・西武新宿線・東京メトロ東西線

・「小滝橋」バス停より徒歩4分(都営バス:飯 64・上 69、関東バス:宿 02・宿 08)